

第Ⅳ部門 彦根城下の歴史的変遷と対比

大阪工業大学工学部	学生会員	○村田吉彌
大阪工業大学工学部	正 会 員	吉川 眞
大阪工業大学工学部	正 会 員	田中一成

1. はじめに

わが国では、歴史的な街並みは長い歴史や風土により形成されてきた。それらの景観は美しく、人々の心に大きな影響を与える。しかしながら近年、歴史的建造物の取り壊し、緑の減少、ビルの乱立、雑然とした看板と標識の増加などによって、無個性で画一的な景観が生み出され、美しいといえる風景は少なくなってしまった。このように歴史的町並みが失われた都市がある一方で、時代の影響を受けることなく根強く歴史的町並みが存在する都市もある。そうした都市では、単に伝統的な建築物が現存しているだけではなく、都市のシンボルとして引き立たせるようなまちづくりを行っているものもある。

2. 研究の目的と方法

近年では、歴史的景観への関心は高まり、人々に親しまれ地域の生活にかけがえのないものとなっている文化財が注目されるようになっていく。各都市で美しく風格のある国土の形成、豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を目的とした景観法が制定されている。そのためにも街の歴史や文化を知り、都市の歴史と文化の調査を行い、都市の歴史的変遷、過去と現在の景観の対比を行うことを目的とする。研究対象地として滋賀県の彦根市を選定している。

研究方法は、過去から現在に至るまでの都市変遷を読み解くために、江戸期の彦根藩から現在までの変遷を明らかにする。そこで、往時の情報がわかる時代の史料、たとえば、旧領旧高取調帳データベースなどの史料を元に、現在の彦根市に至るまでの歴史的変遷を明らかにした。さらに、CAD/CG (Computer Aided Design/Computer Graphics) を用いて景観対比を行った。

3. 彦根藩

江戸期、近江国内には約 30 の藩が存在していた。その中で近江国内に居城を持っていた藩が彦根藩、膳所藩、水口藩である。江戸期のデータの構築を行うにあたり手順として、まず彦根藩、膳所藩、水口藩が納めていた近江国内の領土を把握する。

それぞれの藩の領土分布を把握するために、国立歴史民族博物館のホームページに公開されている旧領旧高取調データベース¹を利用し当時の彦根藩、膳所藩、水口藩の石高情報を村単位で把握できた。そのデータをもとに領土分布図を構築した(図-1)。当時の村界は特定できないので、集落の中心に各村の代表点を設置して表現した。また近江国の郡の位置を表した(図-2)。

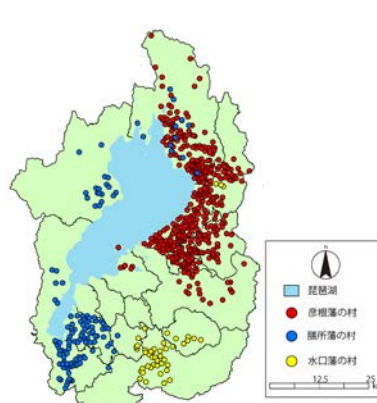


図-1 近江国の藩



図-2 近江国の郡

4. 歴史的変遷

江戸時代から現在までの町並み変遷には、少なくとも地形、人口、土地利用等の変化を把握しておく必要がある。明治後期と社会背景が変わった戦後と高度経済成長期の史料で変遷過程を整理した。

地形の変化では、かつて多数の内湖が存在していたがほとんど姿を消している。行政界の変化では明治22年町制を施行時に彦根町が発足する。その後昭和43年まで市域を拡大していき現在の形となっている(図-3)。また、町並みの変遷を捉えるには時代別に用途地域の変遷の把握が必要になる。土地利用の変化を詳しく知るために、明治後期、戦後、高度経済成長期の地図を定位させ、地図上の建物用地など用途別にデータベース構築を行った。明治後期の土地利用は東海道本線の駅は彦根駅、河瀬駅のみであり、主要な道は中山道であった。明治後期の地図では村ごとの集落の箇所が多数あり、琵琶湖側には沼や荒地が多数存在していた。(図-4)。

また、指定文化財の場所を地図上に表した。名所の分布を見てみると江戸期の建築物は彦根城下には名所が密集している彦根藩の足輕屋敷が重要文化財に指定されているからである。



図-3 行政界変化

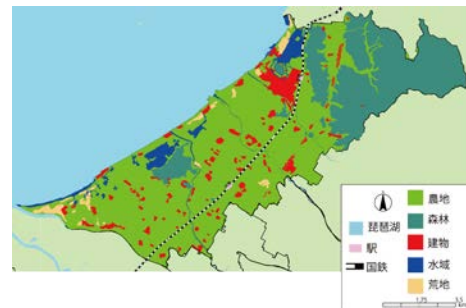


図-4 明治後期 土地利用

5. 対比

町並みの対比を行うのは現在観光地となっている夢京橋キャッスルロードの景観とした。夢京橋キャッスルロードの現在は土産屋や飲食店等が並ぶ商業施設となっているが、往時は京橋通りと呼ばれ、高札場、勘定方、寺院などの彦根城下の重要な施設が集まり、城下町の都市施設の一つの中心を形づくっていた²。

図-5と図-6の京橋口は中堀にかかる橋で京橋通りの起点となっている。江戸時代には通行人を監視する目的であった堅固な門である京橋口門や櫓があったが、取り壊されている。現在は石垣だけが現存し、道は車道用に拡張されていることが確認できる。



図-5 江戸時代 京橋口



図-6 現在 京橋

6. おわりに

旧領旧高取調データベースより江戸期の近江国の藩の領土分布を構築した。彦根の江戸期から現在にかけて、地形、人口、土地利用の変化を明らかにすることができた。城下町の地区では人口減少が続いているなど現在の彦根市域は彦根藩のときと比べ衰退していることが把握できた。また対比をおこうことで江戸時代の景観を復元させることにより、城下の現存する地物また消失した地物を確認できた。



図-7 京橋口の位置

【参考文献】

- (1) 旧領旧高取調データベース https://www.rekihaku.ac.jp/up-cgi/login.pl?p=param/kyud/db_param
- (2) 彦根市, 新修彦根市史 第10巻景観編, 2011